

研究対象者等に通知し、又は公開すべき事項（情報公開用）

試料・情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）

・研究課題名： 爪部・掌蹠末端黒子型メラノーマにおける腫瘍関連高内皮細静脈分布の差異に関するpilot study

・目的： 爪部・掌蹠末端黒子型メラノーマにおける腫瘍関連高内皮細静脈（Tumor-associated high endothelial venule: TA-HEV）分布につき、その差異を検証することで、進行期における各種免疫チェックポイント阻害薬選択のマーカーになり得る可能性があるか解明することを目的とします。

高内皮細静脈（HEV）は、リンパ節やその他の二次リンパ系器官へのリンパ球の輸送を媒介する特殊な血管です。血液からのリンパ球の高い滲出を支えることにより、癌の新抗原に対する免疫監視に不可欠な役割を担っています。TA-HEVはこの腫瘍胞巣へのリンパ球輸送を促進することでがん免疫および免疫療法に重要な役割を果たすと考えられています。

メラノーマの腫瘍胞巣におけるTA-HEVの多さは免疫チェックポイント阻害薬である抗PD-1抗体単剤療法を受けた患者では臨床効果との相関はみられないものの、抗PD-1抗体+抗CTLA-4抗体併用療法を受けた患者の全生存期間を有意に改善したとごく最近の海外の研究で報告されています。すなわち抗PD-1抗体+抗CTLA-4抗体併用療法選択のバイオマーカーとなり得る可能性があります。詳細なメカニズムは不明ですが、TA-HEVの分布は日本人に多い末端黒子型メラノーマでは検討されておらず、本病型でのTA-HEVの分布を解析することは日本人患者さんでの適切な薬剤選択に寄与する可能性があります。

・研究期間： 承認日 ~ 2025年 3月 31日

・研究対象： 2011年 1月1日 ~ 2022年 11月 30日

利用し、又は提供する試料・情報の項目

： 診療記録、検査データより年齢、性別、原発病変部位（掌蹠・爪）/転移臓器、病期を抽出し、抽出検体を用いて免疫染色により腫瘍・免疫関連分子の発現状況（MECA-79、PD-L1、PD-1、CD4、CD8、TIM3、CD31）を検討・解析します。

利用する者の範囲

： 中村泰大(埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科)

： 川崎朋範(埼玉医科大学国際医療センター病理診断科)

： 解良恭一(埼玉医科大学国際医療センター呼吸器内科)

： 森 龍彦(埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科)

： 和泉光晃(埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科)

試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称

： 中村泰大(埼玉医科大学国際医療センター皮膚腫瘍科・皮膚科)